Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 25第13号
2025年（令和七年） 7月4日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話（03）3534-7411（代） FAX（03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（6月26日～7月2日）の国際石油市場は、24日のイスラエル・イランの停戦合意により緊張は緩和、市場の関心は需給に移ったと見られ、1日までは安定的に変動したが、最終日2日は、イランをめぐる緊張、米国関税交渉の進展期待で上昇が見られた。

NYのWTI原油先物市場は、6月26日反発の65.24ドルで始まり、27日続伸の65.52ドル、週明け30日は反落の65.11ドルと65ドル台の小幅な値動きで推移したが、その後は続伸、2日は67.45ドルで終わった。

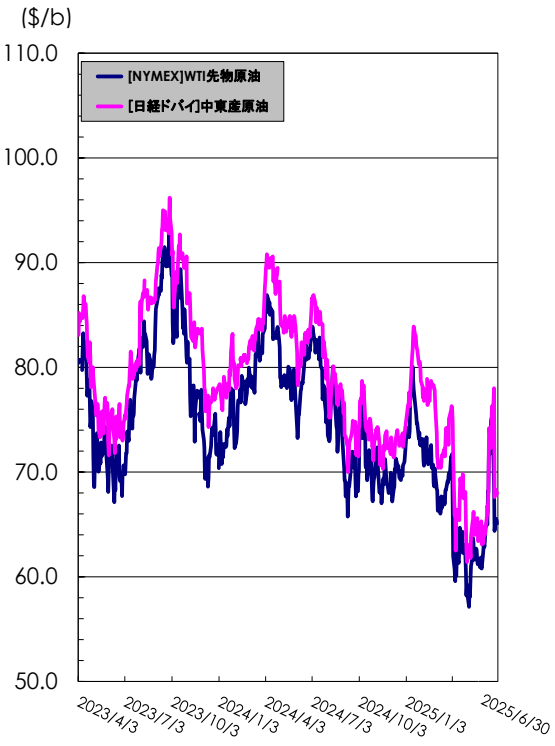
また、中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）も、前週（6月19日～25日）は67.60～78.00ドルの範囲で推移したが、当週は、6月26日68.30ドル、27日67.90ドル、30日68.00ドル、1日67.60ドル、2日68.10ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（6月19日～25日）144.92～146.50円の範囲で推移したが、当週は、6月26日144.80円、27日144.58円、30日144.81円、7月1日143.69円、2日143.70円だった。

財務省が6月27日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格は64,114円で前旬比3,306円安、ドル建てでは70.69ドルで前旬比2.87ドル安、為替レートは1ドル/144.19円。

そのような中で、6月30日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比1.4円高、軽油も同1.3円高、灯油は同17円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は174.2円だった。7月3日～9日、燃料油補助金の支給額は、ガソリン・軽油の場合定額10.0円（前週比3.4円減）、灯油・重油の場合定額5.0円（同1.7円減）となった。

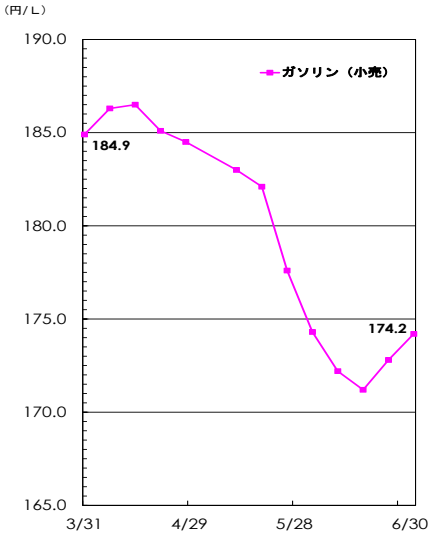
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	6/22 ～ 6/28	2,316	▲ 49	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	66.9	▲ 1.4	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	6/28	12,288	▲ 44	▲ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	6/30	68.00	▼ -10.00	▼ -17.5
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	6/30	65.11	▼ -3.40	▼ -18.3
	原油CIF単価	（$/bbl）	6月上旬	70.69	▼ -2.87	▼ -17.25
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	64,114	▼ -3,306	▼ -22,514
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	144.19	▲ 1.50	▲ 12.43
	外国為替TTSレート	（¥/$）	6/30	145.81	▲ 1.69	▲ 16.42



（単位：千kl、円/kl）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		6/28	1,673	▼ -109	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/24 ～ 6/30	78.0	➡ 0.0	▼ -5.0
		(TOCOM/中部)	6/30	80.0	➡ 0.0	▼ -2.5
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/30	174.2	▲ 1.4	▼ -1.4

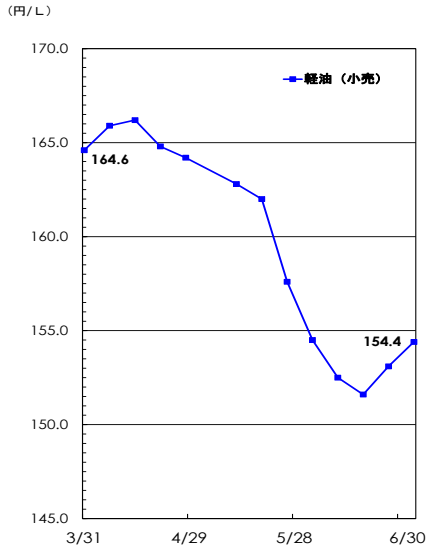
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/kl）

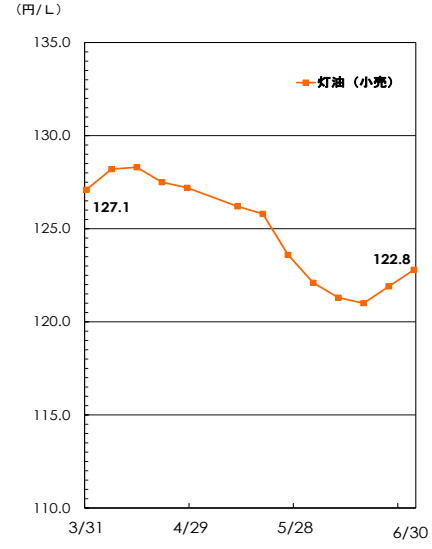
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		6/28	1,602	▼ -31	▲ －
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/24 ～ 6/30	81.4	▲ 0.8	▼ -3.1
		(TOCOM/中部)	6/30	－	－	－
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/30	154.4	▲ 1.3	▼ -0.8

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/kl）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		6/28	2,099	▲ 103	▲ －
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/24 ～ 6/30	81.0	▲ 2.4	▼ -0.5
		(TOCOM/中部)	6/30	82.0	➡ 0.0	▼ -1.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/30	122.8	▲ 0.9	▲ 5.3



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（6月19日～25日）のNYMEX・WTI先物市場は、64.37～74.93ドルの範囲で推移した。

当週6月26日は、米国の石油在庫が、原油、ガソリンともに前週比で予想を上回る取り崩し、需要増加期待から、続伸した。イランを巡っては、停戦でひとまず緊張は緩和されたものの、トランプ大統領は来週の停戦協議を発言、ハメネイ師はイスラエル非難を続けるなど、先行きの不透明感は残った。8月物終値は前日比0.32ドル高の65.24ドル。

週末27日は、OPECプラス有志8カ国が7月6日の会合で引き続き8月の41.1万BDの減産緩和（増産）に合意するとの報道があったものの、米国の相互関税適用開始7月9日の再延期観測の高まり、それに伴う米国株式市場の好調、さらにはプーチン大統領の石油需要拡大発言で、3日続伸した。8月物終値は前営業日比0.28ドル高の65.52ドル。

週明け30日は、OPECプラスによる7月6日の増産合意観測の高まりから、4営業日ぶりに反落した。ただ、ドライブシーズンのガソリン需要増加期待、相互関税の再延期観測、為替相場のドル安に伴う石油先物の割安感などもあり、下値は固かった。8月物終値は前日比0.41ドル安の65.11ドル。

7月1日は、米中それぞれで、製造業景況感指数（PMI）が発表、中国では50を回復、米国では50を割ったものの、前月から改善・市場予想を上回り、両国経済の後退懸念が緩和、回復期待が高まり、反発した。ただ、OPECプラスの増産観測は相変わらず広がっており上値は限られた。8月物終値は同0.34ドル高の65.45ドル。

2日は、イランのペデシュキアン大統領が、議会で成立した「IAEA（国際原子力機構）への協力停止法」の施行に署名、核開発の続行を意味するものとして、今後の停戦に懸念が高まるとともに、米国・ベトナム間の関税合意の成立に、世界経済への期待感から、続伸した。ただ、米国の週間石油在庫報告で原油・ガソリンともに前週比積み増しになったことは、上値を抑えた。8月物終値は2.00ドル高の67.45ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の、7月2日発表の27日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比380万バレル増、ガソリン在庫は同420万バレル増と、いずれも市場予想（各180万バレル減、20万バレル減）に反する積み増しで、ドライブシーズン中の増加に懸念が広がった。

EIAによると、6月30日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.9セント安の1ガロン3.164ドル（121.7円/㍑）と3週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.8セント安の1ガロン3.727ドル（143.4円/㍑）と4週ぶりの値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、6月27日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比6基減の432基となった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年06月22日～06月28日に休止したトッパー能力は75.2万バレル/日で、前週に対して5.3万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は231.6万klと、前週に比べ4.9万kl増加。前年に対しては21.3万klの増加。トッパー稼働率は66.9%と前週に対して1.4ポイントの増加、前年に対しては8.4ポイントの増加となった。

4　国内/製品在庫量

6月28日時点の在庫は、ガソリン、軽油で取り崩しとなり、ジェット、灯油、A重油、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは167.3万kl、前週差10.9万kl減。前年に対しては12.5万kl少ない。

灯油は209.9万kl、前週差10.3万kl増。前年に対しては36.5万kl多い。

軽油は160.2万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては8.9万kl多い。

A重油は72.5万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては3.6万kl少ない。

C重油は166.3万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては12.8万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (6/28)	前週 (6/21)	前週比
ガソリン	1,673	1,782	▼ -109 (-6%)
ジェット燃料	898	881	▲ 17 (2%)
灯油	2,099	1,996	▲ 103 (5%)
軽油	1,602	1,633	▼ -31 (-2%)
A重油	725	704	▲ 21 (3%)
C重油	1,663	1,646	▲ 17 (1%)
合　計	8,660	8,642	▲ 18 (0.2%)

5　国内/元売会社製品卸価格

6月24日～30日のドル建て中東原油価格は前週比大きく値下りし、為替レートはわずかに円高で、元売会社の卸建値は大きく値下げされたものと見られる。ただ、原油価格値下がりに伴い、7/3からの補助金は定額のみの10.0円（揮発油・軽油、灯油・重油の場合は5.0円）に減額されたが、実質卸価格も値下がりとなった模様。

6　国内/製品小売価格

6月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.4円高の174.2円、軽油も同1.3円高の154.4円、灯油は18ﾘｯﾄﾙベースで同17円高の2,211円（1ﾘｯﾄﾙベースでも0.9円高の122.8円）。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが44都道府県、横ばいがなし、値下がりは3県だった。全国最安値は愛知県の168.0円、その次は埼玉県と宮城県の168.3円であった。他方、最高値は鹿児島県の184.0円。最も値上がりしたのは東京都（同3.5円高）、最も値下がりしたのは佐賀県（同1.4円安）だった。

次回調査時（7/7）のガソリンの小売価格は、原油価格の大幅な値下がりによって、「予防的な激変緩和措置」の発動はなく、定額補助金の支給に止まるものの、小幅な値動きが予想される。

（単位：円/ﾘｯﾄﾙ）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(6/30)	前週　(6/23)	前週比	直近高値		
小売価格	レギュラー	174.2	172.8	▲ 1.4	2023/9/4 2025/4/14	186.5	※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
	灯油	122.8	121.9	▲ 0.9	08/8/11	132.1	07年4月以降 2,000店舗を対象。
	軽油	154.4	153.1	▲ 1.3	08/8/4	167.4	直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2025第14号）の公表は、7/11（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。